第 87 回長崎大学 FD 実施報告書

平成２５年５月１７日 提出

1. 題目	新しい教養教育における初習外国語教育について
2. 開催日時・場所	日時：平成 25 年 2 月 2 日（土）14：00 ～ 17：00 場所：長崎大学教養教育棟（新々館）322 番教室　他
3. 主催	教養教育の初習外国語を担当するすべての教員
4. 参加者数 (別紙に参加者名簿を添付すること)	２０人
5. 長崎大学 FD に関する指針第二項への該当について 【複数選択可】	該当するものに〇を記入すること [　〇　] (1)　教員の教育活動に関するもの [　〇　] (2)　カリキュラムの改善に関するもの [　　] (3)　教育の組織的改善に関するもの [　〇　] (4)　その他教育改善に関するもの
6. 今回の FD の主旨・意義 (5.に関連した形で記述すること)	本学では、教養教育を大規模に改革してすでに一年が経過した。既習外国語教育の内容、方法の充実とともに、初習外国語（中国語、韓国語、フランス語等）の上級クラスが平成 26 年度から選択科目として新たに設置されることになった。そのためには、初習外国語担当の全教員が、本学生の初習外国語に対する要望や各学部の意向を把握し、確固とした共通認識を持ち、適切な指導を行うことが必要となる。 具体的には今回の FD は前半と後半に分かれる。前半ではまず言語教育研究センター長が全教員に対して本学の外国語教育改革の方向性や成績の平準化という目的を明確に伝える。次いで大教センターの山地教授が「学生による初習外国語授業評価アンケートの集計結果」と「学生による教育改善要望」について報告する。後半では、各言語の担当教員に分かれ、現在まで実施した統一試験を総括し、共通指導項目の周知徹底化を図り、各外国語に適した授業内容の改善と学生の自宅での学習を促す措置などについて話し合う。また、CALL 教室で使える練習問題の作成についても検討する。
7. プログラム構成 [題目・担当講師] (当日使用した資料等を添付すること)	１．教養教育における外国語教育の改革について　（稲田センター長） ２．学生による外国語授業評価アンケートの集計結果　（山地教授） 　　学生による教育改善要望の報告　（山地教授） ３．統一試験の総括　（楊、大橋、劉委員） ４．共通指導項目と各言語指導内容について　（楊、大橋、劉、葉柳委員） ５．自学自習について　（楊、大橋、劉、葉柳委員） 司会進行　（大橋委員）

8. 実施した FD の成果等 (アンケート等の資料がある場合は添付すること)	中国語分科会では、（１）今年、二年生も統一教科書を使いはじめるので、統一シラバスを作成しました。従って、専任教員はまず非常勤の先生に統一シラバスに書いた授業ねらい・授業方法・到達目標・授業内容について説明して、それから非常勤先生にこの統一シラバスに従って授業すると各教員にお願いした。（２）二年生教科書の統一に従って、２５年度から統一試験を実施することを決まりました。二年生の統一試験（筆記試験）成績の割合が一年生と同じ、全体成績の 50%を占めるので、各クラスの期末試験は「読む・話す」に重点を置いって口頭試問すると各教員にお願いした（期末成績の割合：統一筆記試験５０％、口頭試問２０％、小テストと課題２０％、授業への積極的な参加１０％)。（３）授業時間外の学習を促す措置について、これから call 教室での教科書練習問題の解答を作り、学生に call 教室に中国語を復習しに行かせることについて話し合った。（４）各教員が授業後、学生に課題を出して、次の授業前に必ず小テスト（専任教員が作った小テストをすべて非常勤の先生に渡す）をしてもらうことにした。(５)学生の出席状況について意見交換をして、これから学生の出席状況を十分に把握して、出席率が期末成績評価基準の一つとなることをも各教員にお願いした。（６）中国語に興味を持つ学生に「中国語検定試験」と海外語学研修（中国語）を学生にすすめようとお願いした。 フランス語分科会では、１）今年度の反省　２）来年度の教科書の選択及び授業の内容　３）　自学自習の充実について　という３点について話し合った。まず、今年度の反省としては、教科書が難しすぎたということが問題となった。使用教科書は、北海道大学で使用されているもので、北大では週２回初修外国語の授業がある。そのため教科書にでてくる語彙も非常に多く、また文法も例外が多く提示され、練習問題も高度であった。それで、週に１回しか授業がない長崎大学の学生にとっては、少々難しく、練習問題の回答に間違いがみられることも多かった。さらに、文法が中心で学生から聞き取りに対する要望がでていた。この点を反省して、来年度の教科書は、基礎的な文法をおさえつつ、多方面から学生のフランス語への理解をすすめるためにＤＶＤの映像付き教科書を選択することにした。また聞き取り問題の充実をはかることも決めた。最後に自学自習に関しては、現在はパソコン上で練習問題をすることしかできないが、来年度は情報の先生の力をかりて、新たにスマートフォン上でも練習問題ができるようにしていくことを決定した。 ドイツ語・韓国語分科会では、２５年度ドイツ語統一試験の実施に向けた枠組みについて検討した。（別紙に「ドイツ語共通試験の実施に向けた枠組みの検討結果」を添付する）
9. 実施代表者の連絡先	氏名：初習外国語小委員会委員長　　稲田　俊明 部局：言語教育研究センター e-mail：　inadat@nagasaki-u.ac.jp　　内線：2379
10. 申請者の連絡先	氏名：初習外国語小委員会副委員長　　楊　暁安 部局：言語教育研究センター e-mail：xiaoan@nagasaki-u.ac.jp　　内線：2166

ドイツ語共通試験の実施に向けた枠組みの検討結果

・平成 25 年 2 月 2 日（土）に開催された教養教育ＦＤワークショップ（初習外国語科目）ドイツ語部会におけるドイツ語共通試験に関する検討結果

【実施年度】
平成 25 年度から実施

【対象科目】
１年生対象の初習外国語科目（前期Ⅰ、後期Ⅱ）

【実施時間帯等について】
定期試験週間の２週目の水曜日、６校時目に実施。

【試験のクラス規模及び監督者等について】
クラスを合同にして実施。
主監督は長崎大学の専任教員。要、補助監督

【成績評価の割合】
共通試験：3 割　個別試験：7 割
平成 25 年度は共通試験 3 割で実施し、結果の分析を踏まえて検討

【採点】
各クラスの担当教員が採点（非常勤講師を含む）。

【試験範囲】
現行の共通シラバスを土台にして。ドイツ語Ⅰ、ドイツ語Ⅱ　それぞれに共通テスト出題項目を設定。

五冊の教科書の目次をデータとして、葉柳が原案を作成し、前期、後期それぞれにおいて確実に取り上げられる項目を抽出。ドイツ語担当教員に原案として送付済み。

【作題者】

長崎大学の専任教員がローテーションで全問を作成
原案を全担当教員が閲覧し、検討結果をフィードバック。

【出題の形式】
センター試験のような選択式に限定

【採点】
全担当教員が担当クラスの分を採点

【共通教科書】
共通試験の出題項目に準拠した指導を行うことを条件に、教科書の選定は各教員の裁量の範囲とする。

【今後の作業】
共通の語彙リストの作成
例文集の作成

【参考】
共通テスト出題項目（案）

＜ドイツ語 I（前期）＞
規則動詞の現在人称変化
sein と haben の現在人称変化
不規則動詞の現在人称変化
動詞の位置（主文）
Ja Nein の使い方
定冠詞
不定冠詞
名詞の性
基本的あいさつ

＜ドイツ語 II（後期）＞
定冠詞類
不定冠詞類・否定冠詞
前置詞
分離動詞
非分離動詞
命令形
再起表現
過去形
現在完了型